



香川県防災士会 会報



第21号 2015.11

(一般用)

みなさまお元気ですか？

ラグビーワールドカップ、興奮しました！

そもそもスポーツにあまり興味のない私ですが、身近な人がラグビーを始めたこともあり、今回のワールドカップはルールも分からないのに必死で応援しました。

よく「香川県民は防災意識が低い」とか「防災意識を高めるには」ということを耳にします。しかし、「知り合いに勧められて」「一生懸命活動してる姿を見て、自分にもなにかできないかと思って」と防災士養成講座を受講され、当会に入会してくださる方も多いのです。身近な人が一生懸命（楽しんで）活動している姿こそ、最高の啓発になるのではないのでしょうか。防災訓練等のイベントが多い時期、みなさんの活躍で多くの方が防災に興味を持ってもらえれば♪と願っています。

♪今回は、報告 6 件です♪

<JCI2015 青年会議所香川ブロック協議会防災のワークショップ>

【香川県防災士会会長：久保 雅和】



香川県防災士会に JCI 2015 青年会議所から香川県防災士会に標記 WS に参加してもらえないかとの依頼があり、喜んでということで「9 月 1 日防災の日」に 18 時 30 分～高松市のまなび CAN へ、3 役と各支部長が参加しました。

JIC の趣旨は「自主防災 WS～自助から共助へ 自分たちにできること～」で第 1 部は香川大学・野々村先生の「防災力強化に向けて地域の強みと弱みを知る」と、かがわ自主ぼう・岩崎会長の「求められる防災の役割」の講話。

第 2 部は災害ネットワークの共通認識確認、「自主防災 WS 自助から共助へ 自分たちにできること」、テーブルは県内地域を 8 班に分け、防災士も各班に 1 人、地域連携への意識喚起、地位での防災力の強化を目的に WS を開催。WS は香川県社会福祉協議会・廣瀬主事のファシリテーターで開催されフェイズ 1 は発災から 24 時間まで、フェイズ 2 は 72 時間までの設定で開始。意見抽出、意見交換、キーワードで整理。最後に各班で情報の共有、迅速な対応方法の成果の発表。

今回この WS 参加して、WS の時間が短かったこと、ファシリテーターの重要性とテブルリーダーの指導力だ重要だと感じた。両方が方向性を理解していないのか、中途半端な状況となった班もあった。この点は防災士会も DIG・HUG でも重要なのでしっかり指導して行かないと、と感じた。自分自身もですが「人のふり見て・・・」です。

<さぬき市災害ボランティアセンター運営訓練> 【カレッジ部会：岡崎 和希】

9 月 12 日にさぬき市災害ボランティアセンター運営訓練に参加しました。活動内容としては防災士ブースの準備と土砂運搬体験の手伝いを行いました。今回の運営訓練で防災士ブースでは土砂をバケツリレーをして運搬する体験コーナーと、水分を含んだ毛布の重さを体験するコーナーを設置しました。自分も土砂運搬の体験の手伝いをしましたが、床下から土砂を運搬するにはものすごく体力が必要だということを実感しました。あまり重いとすぐに疲れてしまうので軽い量を何度も運搬するほうが賢明だということもわかりました。今回は多くの人にボランティア活動について説明しなければなりませんでしたが、わかりやすく説明するのが難しかったです。しかし防災士の人たちはボランティアの活動内容を分かりやすく説明するために、どのような体験をしてもらうかやどのように説明すればわかってもらえ

るかなどを考えて運営訓練に臨んでいました。今回のボランティア活動を通じて参加者にわかりやすく説明することの大切さだけでなく、自分もボランティア活動に積極的に参加して経験を積む必要があると感じました。



＜國分寺北部校区の取り組み＞ 【高松西支部：福江 浩】

国分寺北部校区では、災害に強いまちづくりを推進するため、さまざまな企業や自治会・各種団体・学校関係を中心とした活動を推進するとともに、住民との協働による安全で安心なまちづくりを目指し、「自分たちのまちは自分たちで守る」といった基本認識を深めるため活動を行っております。

現在、平成 26 年度に高松市土地改良課が公表した 10 万 t 以上のため池ハザードマップと、今年度発表される 5～10 万 t のため池ハザードマップデータをもとに、国分寺北部校区では被害想定に基づき地域住民で浸水危険性が無い区域まで安心して安全に避難誘導出来る体制を整備することを目的として、地域防災マップの作成するため準備を行っております。地域防災マップは、平成 26 年度から 3 ヶ年かけ国分寺北部校区コミュニティ協議会防災部会及び自主防災会、連合自治会、民生委員児童委員協議会などの各種団体と学校が連携しながら、住民自ら作る「防災マップ」を作成していきます。

この度、香川県防災士会と国分寺北部校区コミュニティ協議会は、平成 27 年 6 月 29 日に地域防災力を高めるための防災・減災教育支援に関する協定を結び、事業への支援を行うことになりました。支援は、協定の締結の日より平成 29 年 3 月 31 日までに、下記の成果物を完成するとなっております。

- (1) 避難所運営マニュアル作成
- (2) 避難所運営訓練 (HUG) の実施



(3) コミュニティ事業継続計画策定

(4) 災害時要援護者マップ作成

すでに、7月5日(日)午前9時～国分寺北部コミュニティセンターでDIGを、また、7月19日・9月20日(日)午前9時～国分寺北部校区新居中ブロックにてまち歩きを行い、香川県防災士会のメンバーも多数の方々にご参加いただき事業を行いました。

今後、新居南・北ブロックと国分東・西ブロックも順次事業を行っています。その際は各支部の皆様のご協力・ご支援をお願いいたします。



<女性部会主催 避難所体験キャンプ> 【女子部会：谷口 寿枝子】

9月19～20日、南川自然の家にて、女性部会主催による防災キャンプに参加してきました。

メインプログラムは、「街あるきと地形の見方」「避難所設営、ローテク防災術」「非常食体験」



<街あるきと地形の見方>

野々村先生の講習です。自然の家周辺の地形図を見ながら座学スタート。等高線の書かれた平面の地形図をみても、まったく地形が想像できない私にとって、チンプンカンプンでしたが、先生お手製の立体模型のお陰で、地形図をみるコツがつかめて、楽しかったです。

座学のあとは街あるき、偶然にも、社に地元の人たちが集まっていたので(※1)、お話を伺う事ができました。

数年前の台風被害では、今回お世話になっている自然の家横の避難所も川の水が氾濫し、避難していた住民が、避難所の畳を上げたお話しや、爛川(ただれかわ)という名前の由来は、氾濫を繰り返す川ということだとか。長く住んでいる人の話は、街を知るにもってこいです。

(※1) 19日は、社日【しゃにち、という産土神の祀る日】だったそうです。



先生お手製の立体模型の場所へ。

実際の目でみて草木はあつたにせよ、深い谷が水により崩れている姿に、自然の力の大きさに驚きました。

【避難所設営、ローテク防災術】

高橋先生(事務局長)の指導です。集めてきた段ボールなどをつかって、プライベートスペース、飲料水段ボールを使った簡易のベッドを作りました。床に敷き詰めることでほのかな温かさがあり、頭部周辺を囲うと、周りの音が少し遮断されることが分かりました。



そして、新聞紙スリッパを作り実際にグラウンドを歩いてみました。整地されたグラウンドでしたので、分かりにくいものですが、素足または靴下だけであるくよりも、地面のでこぼこを感じにくくなることも面白い体験でした。

【非常食体験】



ハイゼックスでご飯を炊き、持ち寄ったおかずを各自で調理。賞味期限の迫った（過ぎた?!）缶詰などが多かったかな。これもローリングストックの一環!!

またリクリエーションとして、BBQ も行いました。学生防災士が 3 名参加していたのですが、着火材を使わず炭に火をつける事に挑戦。コツをつかむまでに、四苦八苦されていました。小一時間かけて火起こしがんばて

ましたよ。

また、今回の企画に賛同いただいた企業から、社内用にストックしている、非常食（※2）を頂くことができました。翌日 20 日の朝食で、美味しくいただきました。

（※2）自社社員が帰宅困難になった場合の非常食で、賞味期限が切れるという事で、廃棄処分するうちのいくつかを頂きました。

最後に、参加者の意見交換時間をとり、皆さんの感想を拝聴いたしました。

個人的には、キャンプも何度か体験しそれなりに資機材揃っているにも関わらず忘れたり、その資機材を運ぶ時、今回当たり前のように車に乗せてきましたが、「重さ・かさ」があるので、一度に人が運ぶ事は難しく、運ぶ機材（車、台車など）も考えておく必要があること。

また、生活スタイルの異なる人たちが、一斉に集まった場所（避難所）で、快適に過ごす難しさや、反対に、それを克服する方法（円滑なコミュニケーション）として、例えば、同じ時間に皆で同じ事をする（20 日朝は、参加者全員参加のラジオ体操からスタートしました）というのは良いのではないかと、という意見など、とても参考になりました。

今回、参加者は、防災を勉強している大学生、女性部会のメンバーでしたが、気づきの多い企画だと感じました。一般参加者への広報や実施場所など、企画を工夫して広がっていくことを期待したいです。

<RB 部会報告> 【RB 部会：阪入 剛裕】

岡山県の医療支援 NPO の AMDA、及び兵庫県の緊急支援バイクチーム BERT が、共同で企画運営する広域災害時支援実働訓練、SPORTS RESCUE 2015 の第 1 回目に参加しました。



これは、内閣府、高知県、徳島県、及び、高知、徳島の地方自治体が全面的に協力する形で、北は福島県、南は大分県からのバイクライダーにより、南海トラフ大震災を想定して、被災時の支援物資の搬送訓練を広域的に実働型で行う、というものです。



我々、香川 RB レッドクロスは県内各地域から、支援物資に見立てたジグソーパズルパーツを持って、今回は徳島県のゴールポイント、美波町、牟岐町を目指し、海側、川沿い、山間部の 3 方向から進行。サポート車両 1 台。オンロード、オフロードバイク 8 台にて各自、アマチュア無線にて交信しつつ、提示されたチェックポイントをクリアしてゴールに向かいました。生憎、台風通過後という事で安定しない曇天ではあるものの、通行規制を伴う正に想定訓練に適したものとなり得ました。

ゴール後は各地域でのおもてなしも有り、地域の方々との顔の見える交流もしっかりと出来ました。宿営地では野営訓練、無線交信訓練等を実施。勿論、デフュージングも!!

翌日は各自撤収準備の後、現地解散。何チームかで帰路に就きました。この訓練の第 2 回目秋バージョンが来る 11/7~8 で、再度、徳島県、高知県で行われますが、次は空からの搬送物資を中継してゴールに届ける、

という形になるそうですが、丁度当日、日本赤十字社中四国地域、第 5 ブロックの災害出動訓練が高知市である為、我々は分散型で各訓練に参加する予定です。

必ず来る南海トラフ地震。今のうちに四国四県の関係各位方々との顔の見える関係づくり、連携出来る形作り、仲間の輪を拡げて行きたいと思っております。

今後とも、我々、香川 RB レッドクロスにご協力の程、宜しくお願い致します!!

<高松北支部総会報告> 【高松北支部：与田 勲 副支部長】

日時 平成 27 年 8 月 22 日 (土) 15 時から 17 時

場所 サンポートホール高松 5 階 55 会議室

出席者 大畑光一郎、伊東史幸、大嶋誠也、大西桂子、笠行拳一、加藤一徳、桐野利春、喜多猛、藤田稔、松延健二、森澤定雄、八木靖雄、与田勲…13 名

来賓 高橋事務局長

<式次第>

1. 大畑支部長挨拶

支部会員 33 名に増えたので、会員の連絡体制をより充実してほしい

2. 高橋事務局挨拶

防災士の会員が増え、より細かい活動が必要で、専門部会を設置することになった。

3. 新会員自己紹介 大西、藤田 2 名

- 4. 出席者自己紹介 新会員以外 12名
 - 5. 26年度収支決算報告 大畑支部長
 - 6. 会計監査 与田より土居監査役欠席のため
 - 7. 26年度支部活動報告 与田副支部長
 - 8. 規約の制定について 大畑支部長
※抽象的で判りづらい、もっと独自の規約を・・・質問あり
 - 9. 役員について 今年はず年と変わらないが、規約第6条の役員名に相談役がないので、規約を改正して追加する
 - 10. その他 北支部でも「会員スキルアップを図る研修会を企画してほしい要望あり
 - 11. 連絡体制について 新入会員5名は現住所により市の北(A)、中央(B)、南(C)へ同封参照
 - 12. 県作成DVD「地震発生そのとき」鑑賞
- ※懇親会 庄や8名参加 今回出欠の無返答が10名又当日の無断欠席もありました。

今後の行事予定

- 11月29日 三豊市防災士会 HUG 研修
- 12月5日 地域強靱化シンポジウム (詳細は後日連絡)
- 12月5日 忘年会 (詳細は下記)
- 12月15日 高松地方気象台合同研修会 (詳細は後日連絡)
- 12月16日 危機管理シンポジウム (久保会長登壇・詳細は後日連絡)

他、各支部で予定されているイベントもありますので、都合のつく方はご参加ください。